

特51-556



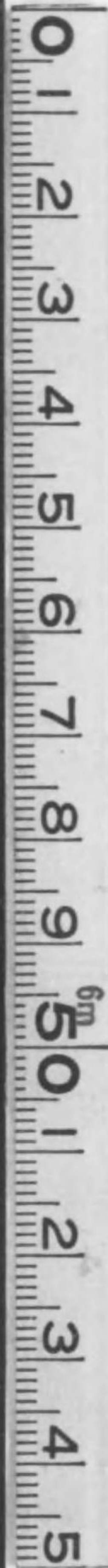
1200800230680

特5 1

556

除虫菊栽培書

国立国会図書館



始



正四位前 田正名君 題字 香莊上山英一郎著

インセクトパウダープラント

除虫菊栽培書



(不許轉載)

特51

556

郵便差立心

以上右の割合にて目方二十目増す毎に壹錢づゝを増す

○書籍類及商品見本 日方三十目迄貳錢 六十目迄四錢 以上目方三十目増す毎に貳錢づゝを増す

○書狀 日方二匁迄貳錢 全四匁迄四錢 以上二匁増す毎に貳錢づゝを増す

○書留郵便 書狀郵税の外に手数料として金六錢收むるものとす

○配達証明郵便 手数料として別に金參錢收むるものとす 右は間違なく受取人に郵便物を渡したることを郵便局に証明するものとす

○受領通知郵便 貳錢納むるものとす 郵便物を受取りふると

○小包郵便 小包郵便は普通郵送し得らるべき郵便物にして容積の大ある重量の多し物品を郵送し得るものとす

小包郵便料

量	二匁	四匁	六匁	八匁	一貫	二貫	三貫	五貫
里	二匁	四匁	六匁	八匁	一貫	二貫	三貫	五貫
程	五錢	七錢	九錢	十一錢	十三錢	十五錢	十七錢	
外	八錢	十二錢	十六錢	廿錢	廿四錢	廿八錢	三十二錢	
百里	十六錢	廿四錢	三十四錢	四十四錢	五十四錢	六十四錢		
外	廿四錢	三十四錢	四十四錢	五十四錢	六十四錢			

○郵便爲替 小冊替は拾錢以上三匁迄よして手数料三錢とす 一通常爲替金五匁迄手数料四錢十匁迄手数料六錢金 廿匁迄手数料拾錢三拾匁迄手数料拾五錢とす 但し一日取組は一人金三十圓なれば三十圓以上取組んとするときは二日になすか又は二人にくむべし

除虫菊栽培書

一正三位子爵中牟田倉之助君

一正四位勳四等前田正名君

式三榮君題字

一緒言 自序

一白蠟 第三回内國勸業博覽會褒賞証及賞牌寫

一紀州 蜜柑苗 第三回内國勸業博覽會褒賞証寫

一除虫菊褒賞寫及褒賞下賜セラレシ所以

一臺南縣知事正五位勳四等儀具靜藏君謝狀

目次

一除虫菊効能大意

一除虫菊販賣ノ主旨

一舶來除虫粉効能稀薄ナル所以

一北米合衆國除虫菊ノ用途及獨逸澳太利ヨリ輸入額箱詰方

一 二 三 四 五 六 八 九

十一

十二

十三

十四



一米國カリフォルニア州移植ノ巨利ダシマシヤ一ヶ年輸出額	十四
一本邦除虫菊栽培起原及本邦地味氣候ノ適セルコト	十五
一本邦地味不適當ト誤認セシハ種子ノ撰擇ヲ欠キシニ因ル	十五
一採種播種ノ發芽成跡	十六
採種季 播種季 苗床灌水 種子良否 發芽日數 試培所區画	
一發芽容易荒蕪砂礫寒暖地試植ノ好結果	十八
一舶來品輸入防止見込 臺灣地方販路ノ手始メ	十九
一將來ノ有望 昨今賣買取引ノ盛況	二十
一播種期 播種方	廿一 廿二
一植出シ期 植出方	廿三
一本場植付期 轉植方 植付後ノ手入并ニ夏期ノ灌水ハ枯死セシムルノ實驗注意	廿四乃 至廿六
一屈強苗ノ仕立方 普通苗ハ枯死シ易キ原因	

一肥料及肥料期	廿六
一開花及摘花	廿七
一莖葉刈取方	廿八
一採種及選種方	廿八
一除虫劑製法 全秘法	廿九乃 至卅二
一除虫劑 除虫液 混合物 混合量及製法	三十二 三十三
莖葉 麥粉 アルコール アンモニア 石鹼 蒸溜水 混合原液製法	
一全製法	三十四
体外ヨリ有効ナラシム製液法	
一簡便除虫液製法 全蚊遣リ線香製法	三十五 三十六
一除虫粉 全液用法	卅七乃 至卅八
蚤虱南京虫家畜害虫蠅蚊有翅虫類植物害虫撒粉注液燻烟方	

一除虫菊適地 濕地植方 舶來粉ト本園粉ト效能比較…………… 卅九

除虫菊壽命 苗培養ト割株ノ利害 割株植方

一植付株數 播種量…………… 四十一

一收支計筭表 全奈良縣廳內務部ヘ報告セシ計算…………… 四十一乃至四十三

一除虫菊ノ普通作物ト異リ過大ノ利益アル理由…………… 四十四

一全國新聞雜誌ノ贊評…………… 四十五乃至五十三

大阪朝日始メ全國新聞雜誌評中村學士ノ人体ト蚤蚊ノ關係外山農學士ノ浮

塵子驅除說全除虫菊ハ植物ニ無害唯一ノ驅虫劑ナルヲ名和混虫研究所長ノ

談話一節

一有効證明…………… 五十四

大阪府監獄署 全府立病院長 其他各府縣實驗報告

一除虫液滋賀縣立農事試驗場御試驗成跡…………… 五十五乃至五十六

一名士來園…………… 五十七

正四位錦鷄間紙候田中芳男君始メ奈良縣屬井上氏農商務省技師農學士山下君外

一明治十八年五月一日農商務省農商工公報第三號…………… 五十九

在澳日本領事ノ報告 高山荒蕪地ニ繁茂スルヲ 乾花粉末荷造方 米國ノ輸

入豐凶ニヨリ價位ノ大差 日本ノ適地 山野ノ貧民ニ職業ヲ與フルヲ タル

マシヤ歲入額五十万弗

一北米合衆國郊野新聞記事…………… 六十乃至六十三

菊ノ性質 米國博學家ノ諸說 人畜植物ニ無害ナルヲ 家外ノ虫類ニモ有効

ナルヲ 博士リレイ氏ノテキサス州ニテ廣ク畑地ニ試用有効ナリシヲ ミル

コ氏ノカリホルニアニ栽培利益

一佛國人の有効說…………… 六十三

全用法 田畑ノ使用ハ米國近年ノ發明ナルヲ

一明治十九年四月十五日農商務省農商工公報第十四號……………六十五

米國領事ノ報告 粉末箱詰目方 輸入原價 卸賣價格 乾花俵詰方

一明治十九年六月十五日農商務省農商工公報第十六號……………六十七

菊花栽培 將來日本ノ一大物産トナルコト 播種施肥 摘花製法 毛布毛皮ノ

除虫用法 タルマシーノ平均價格 全輸出額

一本邦地味寒暖國共適スル實証及除虫粉ハ揮發性ナラサルコト附言等

〔六十八乃
至七十一

強殖

兵産

正三位子爵

中牟田倉之助書

一
四
為
一



咲花乃匂ひも

いと、高九一て

むしぞへはとぬ

た九そ此菊

爲上山兄

式守榮

緒言

凡そ農界の最も恐るべきは昆虫の害にして古來虫害の爲めに饑饉を來しよる例甚多し近くは昨三十年の如き本邦産米三分の一を害し轉た天保の慘況を追想せしめり故に農家も此の害虫驅除には頗る若惱注意し或は点火誘殺の法を設けて母蛾を驅り或は枯草の巢屈を艾除して螟卵を除く等凡そ驅虫の方法に於て勉めざるなし然りと雖も是等乃方法よる從來已に行はれつゝある普通の除虫法にして素より虫の種類により効力なきにあらざれ共山野の廣き悉く螟卵附着の枯草を驗して燒尽し得べきにあらず又飛行せざる虫類にありては点火誘殺の効を奏せしめ能わざる等の事情もあれバ未だ以て完全なる驅虫法と云ふべからざるなり蓋し劇薬を使用して驅虫の方法を講せば即時殺滅の簡便法亦なきにまもあらずと雖も劇薬の驅虫は往々大害を醸す事ありされば驅虫の目的を達せん爲め却て其植物を傷害するが如き又實に無益の次第と云ふべきなり嗚呼驅虫の良法よる夫れ果た之を奈何せん歎喜ぶべし慶すべし茲に

一の靈草のあり何そや除虫菊是なり

抑除虫菊は素と澳國の産にして菊科に屬する宿根植物なり其花一種の芳香を保ち殺虫に用て特殊の奇効を有す故に家畜の害虫特に植物の害虫を殺滅するに最も有効なるものなり普通の除虫劑は何れも多少の毒性を含み人体は勿論亦植物に傷害を與ふれ共獨り除虫菊にありては少しも斯の如き恐れなく而かも混虫に對しては格別なる毒性を有し如何なる虫類と雖も又奏効せざるなきは實に農業上天與の賜と云ふべきなり

以是吾人先年來熱心之が栽培繁殖に従事し居れり常に謂らく本草を農家の間作とし家々之が栽培に従事し大に産額を増殖し一般植物の害虫驅除に使用するに至らば只に一郷一家の利益を得るのみ取らば將來彼の恐るべき虫害を免れ復た天保被害の慘況を演せしめず擊壤鼓腹四海昇平を謳歌するを得べき歟茲に除虫菊栽培書發行に際し拙詩を録して以て自序に代ふと云爾

戊戌六月初五日

著者識

農事多年獨勵精
更開別界植靈英
害虫四散除斯毒
耨地耕雲自大平

香莊 上山英一郎

第三回內國勸業博覽會及
第四回內國勸業博覽會

受賞



有 効 三 等 賞 牌

第三回內國勸業博覽會褒賞証

和歌山縣有田郡山田原
上山英一郎

白 蠟

品質佳良ニシテ價值廉ニ製額亦多シ是レ畢竟製造ノ
法方ニ改良ヲ加フルニ依ル其有功嘉賞スヘシ



有 功
三 等

從七位	石川 巖
審七位	伊藤新六郎
正七位	中村貞吉
正七位	久原躬弦
審七位	前田正名
審七位	九鬼隆一

前記ノ薦告ヲ領シ茲ニ賞牌ヲ授與ス
明治廿三年七月十一日

總裁大勳位貞愛親王印



有 効 二 等 賞 牌

第四回内國勸業博覽會褒賞証

白 蠟

和歌山縣有田郡山田原
上山英一郎

夙ニ精製ニ注意シ品質佳良ナリ價格低廉製額亦甚多
ク能ク内外ノ需用ニ適ス



有 功
二 等

正 六 位
審 查 官 從 七 位

平 賀 義 美
內 海 三 貞
高 山 太 郎
中 澤 岩 太
前 田 正 名
九 鬼 隆 一

審 查 部 長 正 四 位 勳 四 等
審 查 總 長 正 三 位 勳 二 等

印 印 印 印 印 印

前記ノ薦告ヲ領シ茲ニ賞牌ヲ授與ス
明治廿八年七月十一日

總裁大勳位彰仁親王印

輸出重要貿易品ノ一二數ヘラル、世界特有物産殊ニ豪商ニヨリテ製造セラル、白蠟

ニシテ有功二等以上授賞ノ榮ヲ荷イタルハ大日本國中僅カニ六名而シテ此ノ名譽アル幸福者ノ一人タルハ實ニ予ノ名譽トスルトコロナリ

第四回内國勸業博覽會

和歌山縣有田郡山田原

上山英一郎

紀州本場
蜜柑苗



審 查 官 從 七 位
從 五 位

諏 訪 鹿 三 郎
南 鷹 次 郎
福 羽 逸 人 郎

審 查 部 長 正 四 位 勳 三 等
審 查 總 長 正 三 位 勳 二 等

田 中 芳 男
九 鬼 隆 一

審 查 總 長 ノ 申 告 ヲ 領 シ 茲 ニ 之 ヲ 授 與 ス
明治廿八年七月十一日

總裁大勳位彰仁親王印

狀

褒

第四回内國勸業博覽會

紀州本場
温川密柑苗



和歌山縣有田郡山田原

上山英一郎

諏訪鹿三 印

南鷹次郎 印

福羽逸人 印

田中芳男 印

九鬼隆一 印

審査官從七位
從五位

審査部長正四位勳三等
審査總長正三位勳二等

審査總長ノ申告ヲ領シ茲ニ之ヲ授與ス

明治廿八年七月十一日

總裁大勳位彰仁親王 印

褒 狀

多年植物培養上ニ注意シ其得ル處實ニ妙カラス即チ本國ノ培養セシ苗木ハ之ヲ遠地ニ運ビ或ハ瘠土荒蕪地ニ轉植スルモ少シモ枯傷ナク繁茂成育ス是レ即チ培養ノ熟練ニヨルモノトス

第四回内國勸業博覽會褒狀

一除虫菊

上山英一郎

諏訪鹿三 印

南鷹次郎 印

福羽逸人 印

審査官從七位

從五位

審査部長正四位勳三等 田中芳男 印
審査總長正三位勳二等 九鬼隆一 印

審査總長ノ申告ヲ領シ茲ニ之ヲ授與ス

明治廿八年七月十一日 總裁大勳位彰仁親王 印

褒 狀



一 除虫菊

(混虫類殺滅劑原料)

近時除虫劑ヲ製造販賣スルモノ多シ然レ共概テ舶來外品ノ請賣ヲナスモノニシテ儘内地ニ製造スルモノ(原料ヲ拙者ニ抑グ者モ)アリト雖モ一攫千金射利ニ汲々トシテ種々ノ雜物ヲ混合シ或ハ正品ノミニテ製造スルモ其製法ニ注意考案シ能ハザルノ輩ノミナレバ充分ナル功能ヲ奏セシムルモノアルコトナシ併シ拙者ハ除虫劑ニ就テハ多年苦慮殊ニ効能ニ於テ驚クベキ奏効セシムル爲メ摘花 日曬 香氣ノ發揚加減等深ク考究發明シ其結果舶來品及ビ一般凡人ノ製造シ能ハザル功能顯著ノ佳良品ヲ製出セリ是一ハ原料花自家栽培新鮮成ニ因ルト雖モ以上ノ注意亦關テ功績ヲナセリ又苗ハ殊ニ培養宜シキヲ得強硬ナレバ之ヲ遠地ニ運ビテ數日ヲ經ルモ(普通除虫菊ハ至リテ纖弱ノモノナレバ少シノ日數ヲ經レバ概テ枯死スルヲ常トス)枯死セザルノミナラズ少モ傷ミナク能ク成育繁茂ス(乃チ發生成育責任帶テ保証シアルトコトナリ)

而シテ種子ノ如キモ充分注意撰擇シアレバ播種一トシテ發生セザルコトナシ是則今般博覽會ニ於テ特ニ褒狀ヲ下賜セラレタル所以ナリ
除虫菊ハ種子發生甚タ六ヶ敷(田中君ノ如キインセクトハ實ニ有益ノ奇植物ナレモ惜ムベシ本邦ハ地味適セズ)ト併シ當時ニアリテハ種子ノ撰擇培養ノ方法等ヲ過チシニ因リシナラン否ナ殆シド發生セザルモノトスレモ是皆種子ノ撰擇ヲ欠キシニ因ルノミインセクトハ寒暑如何ナル地ニテモ(水田濕地ヲ除キ)能ク發生繁茂スルハ予ノ保証スル所ナリ殊ニ在澳日本領事ダウルグ、ヒユテツロツト氏ノ(日本ノ地味ハ本草栽培ニ適シ將來貿易上有望ノ物産タルニ至ルベキ)報告ノ卓見ニ違ハス我國至ル處地味好適シアレバ奮テ大ニ栽培アラントヲ

謝狀

一除虫菊
一除虫劑

本縣物產陳列所設立ノ主意ヲ翼賛セラレ
特ニ陳列品トシテ貴重ナル物品御寄贈相
成爲ニ本所ニ一層ノ光彩ヲ發輝シ新領土
物產開發上裨益スル所洵ニ尠カラス貴名
ハ官簿ニ録シテ永ク本島ト共ニ不朽ニ傳
フベシ茲ニ聊カ貴下ノ深原ナル芳志ヲ感

謝シ併セテ益々本所ノ目的ヲ贊助アラシ
ムヲ希フ

臺南縣知事

正五位勳四等 磯貝靜藏

臺南縣知事
印

明治三十一年三月十八日

上山英一郎殿

右臺南縣知事正五位勳四等磯貝靜藏君ヨリ特ニ懇篤ナル謝狀ヲ贈ラル亦本園ノ面目
トスル處也益々本業販路ノ擴張ト全時ニ聊カ國益ノ増進セラレンコトヲ企圖セン諸士
亦幸ニ奮テ贊助アラントコトヲ希望ス

大日本實業會五二會々員
大日本木蠟會々員
大日本農友團々員
大日本京都本草會々員
大日本農會々員
帝國農家一致協會々員
有福農園特待員
米國桑港サター街百廿二番植物會社々員

紀州有田郡山田原
本邦除虫菊創植者
上山英一郎

除虫菊粉の効能大意

除虫菊粉所謂純良のみどり粉の無血虫類殺滅に驚くべき奇効あるは漸く世人の認む
る處なるが其効能を只一部の蚤虱類に限りし如く思ひ未だあらゆる動植物害虫驅除
に多く使用せられざるは實に遺憾の至なり是は除虫菊の俗に蚤とり粉と稱せられ

て只一の殺蚤劑とし誤想せらるゝと且つ近時植物あれば未だ充分實驗をなせし人
の少なきが故なるべし除虫粉の機能を諸種虫類に試験する時は其研究を重るに隨
ひますゝ奇効を有する靈草なる事を確認し得るべし蠅蚊の如きは燻煙して驅除
し得べく(撒粉器にて撒布せるもよし)植物害虫には注射液撒粉して殺滅せしめ得べく
而して蛙蟻蛇蜈等の強性のものも亦充分殺滅せしめ得べし(蛇の如き体上に粉の附
着し難きものにはクリスリン又は少許の水を注ぎ撒布すべし(蟹の如きは暫時よし
て泡沫を吐出し全く歩行し能はざるに至るべく稍多量を用ふる時は其手足の節々離
落するに至る殊に最も驚くべきは水族虫魚類をも殺滅し得べし例令へば鯉鮒の如き
各別桶に放ち少量を加へ試むべく鰻鮪の如きも暫時にして殺滅す此の他名目の知ら
れざる水族諸種乃虫類に試みしに何れも能く奏効せり

使用方は注射液燻煙撒粉等多少用法異なれ共要は(毒氣は虫体の小孔より吸入せらる
者なれば)只虫体に粉末を附着せしむるにあり幸に實驗ありて猶諸種の害虫殺滅

に有効なる研究をなし大に我農界に益せられん事を望む
但し虫性と用法および即時奏効せざる數時間又は數日の後死滅するものもあれば眼
前倒死を見ざるもて靈草の奇効を埋没する事なけれ

インセクトパウダープラント

除虫菊は素と是れ舶來の種子なり其形宛も金雞草の如く其花香氣高くして殺虫に効
あり特に蚊蚤其他南京虫等總て動植物の害虫類に殊更なる効能あるのみならず又能
く稻虫殺虫に有効なりと予先年來試植し今や數多の苗を培養せり併し事試植にあ
れば敢て收利の目的にあらざりざるに明治廿七年三月三日大坂朝日新聞を初め全
國諸雜誌諸新聞の擧て特に此は有利にして有益の奇植物なる事を記載せらるゝや遠
近有志者續々顯出し分與請求實に非常なり一々應答に煩に堪へず會々友人某語るに
除虫菊のみを目的とせず廣く社會公益事業として蕃殖せしむべきを勸告せざる依て

舶來粉
乃無効

自家製
は有効

茲に始めて販賣する事とせり世の殖産有志家幸に一小事として等閑に付する勿れ
除虫菊は蛆、虱、南京虫、蜈蚣、毛虫、羽虫、蠅、蟻、蚤、蚊、夜盜虫、根切虫
米麥雜穀の害虫其他作物にありては綿、藍、煙草、野菜樹木の害虫蚜虫、毛虫、稻
虫等有らゆる動植物害虫を殺滅するの奇効ある事已に我國醫化學士の試験と實驗
により明なりとす然りと雖も藥店に於て買求めたるものは効能の稀薄なるものあり
て蚊、南京虫、蛆、毛虫の如き即時奏効するものも往々効能顯著ならざるものあり
畢章是等は舶來の原物乃ら外國製造所に於て已に茶の粉小麥粉或は莖葉等の種々混
物しめ既に内國商人の更に糠黃粉等各種の混物をまじふるによるものなれ共又時に
除虫菊の眞性を誤り効能顯著ならざる事を蝶々する輩尠ならず混物なき新鮮な
る自家製造の純良品は決してかゝる効能の薄きものにあらず之を使用する事とは如
何ある虫類といへども殺滅せざる事なく實に驚くべき効能あるものなり
除虫菊を使用するに其虫性の強弱により用法種々あり粉のまゝ撒布するあり乾花の

米國の用途及箱詰方

そ、煙煙するあり又液汁として澆注するあり(用法下ニ記す)其用途頗る多し北米合衆國の如きは外國より輸入するもの年々驚くべき巨額にして其用途は屋内の昆虫のみに用ゆるにあらざ家畜を初め草木の害虫殊に果樹、煙草、綿木等の害虫に用ゆるもの多しと云へり(並米利加にては器械を以て馬上)我國の如き未だ之を使用する事普ねうらずと雖も今猶年々獨逸、澳太利等より輸入するもの亦少々あらず聞く昨年の如き輸入額八万圓以上上れり(外國より輸入するものは粉末は一箱十六圓目を入れ乾燥花は一箱四十八圓目を詰り何れも無税なり)

除虫菊は近時北米合衆國カリフォルニアへ移値して驚く可き巨利を博しつゝあるものありと實に謂れなき事よあらざるありタルマシヤにありては此の除虫菊を以て輸出貿易重要品のひとつ其額年々百萬圓の輸出をなしつゝありと云へり又驚くべき巨額と云べし

本邦除虫菊の種子をダルシヤより傳播本園始めて栽培せしは明治七年あり依りて

本邦の地味は原産地より一層適す

最初の失敗

未だ大に栽培に従事せし處なしと雖も予が栽培實驗によるときは原産地より遙か我國の方地味適當しある事を發見せり是則ち除虫菊に限らずかゝる種類の植物は如何なる物と雖も本邦に適應せざると云事なきは其季候風土のよろしきによるなるべし然るに往々除虫菊の種子は發生しがたきもの或は發生せぬものとし又は苗の如きも地味不適當にて繁茂せざるものと誤認する人あり是等は其栽培の方を知らざると且種苗の撰擇を欠くに大に原因する事を知らざるが故なり其實例を擧ぐれば

本園始めてインセクト種子を特に農商務省方下附せられ播種せし時甲乙數ヶ所ニ苗床を整理し播種の方法を始め灌水其他注意至らざるなし然るに甲は發生せず乙は發生後漸次萎縮し悉く枯死す依りて大に失望せり會々播種の際途次へ尤も自園中一種子の容器を轉植し散乱せしめたるを思ひ起し心當りの地を搜索せしに圖らざりた所々に叢生しあるを發見せり直ちに轉植之を培養せしに日ならず繁茂し次て開花成實せり而して再び之を試培所甲乙丙丁所々に區畫し播種せしに實に左の分合に發芽

せり

●採種

花瓣萎凋後一周間経て採種し播種せしもの

發芽 三分

全 二週間経て採種せしもの

全 七分

全 三週間経て採種せしもの

全 十分

●播種季

採種後直ちに採種せしもの

發芽 一分

早春せしもの

全 八分

晩春せしもの

全 五分

秋季せしもの

全 十分

●苗床灌水

毎朝夕せしもの

二分

毎三日目せしもの

七分

積發芽成

毎二日夕一回せしもの

十分

(尤も潤雨あるときは灌水の要なきものとす)

●種子良否

並通のもの

發芽 二分

撰擇せしもの

全 四分

精選せしもの

全 十分

●發芽日數

並通のもの五六週間内漸次所々發生するものあれども精選種子は凡そ二週間内若し

くは三週間にて一齊發芽す

但し覆土の厚薄播種の時期により多少遅速あるものとす

右成績によるに採種は花瓣萎凋後三週間後のものを良とし苗床の灌水は毎二日夕
一回どし播種の好季は秋にして種子の充分精選せしもの、熟良たるや明なり然れど

失敗の原因は
原苗の不良なり

も採種季は往々霖雨の候に出會することあり宜しく晴天を見透し採收するを良とす
 又前に甲乙二ヶ所に播種せしもの、甲は發生せず乙の發芽後枯死せしは一は抜ひ町
 重に過て注意を欠きたると一は種子の撰擇を欠きたるによることを發見せり而して甲
 の發生せざりしは毎朝夕多く灌水せしたため表面の粉土粘結して種子を腐敗せしめた
 るにあり乙の種子不精選の爲め發芽漸次にして一齊ならず即ち種子の精良なるもの
 は早や已に發生しあるに不精選のものは未だ發芽せず此の際にして覆を取り除く時
 將に發芽せんとするもの乾死す依て數日覆をなせしに前に發芽せんとするもの黒色
 を顯はし大半腐敗枯死の狀を呈せり再び驚て覆を除きしに日射のため己に纖長せし
 もの及ひ將に發芽せんとするもの共に一日に乾死せしめたり是乃ち其扱の素より拙
 なかりしによりたるなれ共亦一に種子の不精選なるに因りたること明あり（播種方
 下記す）

除虫菊種子は一般發生しがたきもの、如く云へり然れ共予の實驗にては

瘠土寒
 地如何
 なる處
 にも適
 す

輸入を
 防止す
 へし

（精良種子ハ）意外に能く發生するものなり元來除虫菊は其性野生なる事は已お散乱
 して少しも注意せざれば島中にも發生する事あるを見ても明なり依て予は只種子の
 充分なる撰擇と播種方法及轉植の際とのみ注意する事とせり而して斯の如き粗畧の注
 意は反りて能く菊其ものに適せし故なるか爾來播種曾て一回も發生せざると云事
 なく漸次大に繁殖せり以後實地試験のため或は之を山頂に或は荒蕪砂礫地に瘠土に
 膏腴地に寒地に暖地に又は北陸地方霜雪深き處等種々轉栽移植を試みしに是れ亦繁
 茂せざると云事なく何れも好結果を呈せり
 之れにより考ふるに本邦の地味は原産地より遙か好適しあるや其實験により明なり
 とす依て本邦此の植物を大に奨励栽培するふ至らば他日其産出の盛大に趣くや必せ
 り而して我國今猶年々多額を輸入しつゝある舶來品の如きは又早晚防止するに足る
 のみならず又一段の輸出品とあるべし

（本圖の如き先づ手始めとして本年より大阪の貿易商小今井氏と特約して大に支那

朝鮮及び占領地臺灣地方へ販路を擴張する事に從事する事とせり而して昨廿九年の如き已に全氏の手を経て數万を該地方に試賣せしに大に喝采を博せり併し全年は何分原品不足のため充分需用に應ずる能はず隨て使用途も僅に南京虫蚊虱蚤位に用ひしに過ぎざれども該地方の如き随分種々雜多の害虫多き由なれば今後おもしろき需用を來すや明なるべし

予は各位特に藥種商及産業篤志家諸氏に勸告此の有望なる植物増々栽植して歐米各國へ輸出し(例令へダルマシヤ又はベルシヤの如き輸出重要物産たらしめざるおもせよ)將來一の物産となす事を企圖すべし原種を彼れに得金銀を彼より得る豈又愉快の業ならずや

本草の輸入は明治十七年にして在澳國日本領事ゲオルグ、ヒユツテロット氏により始めて本國紹介せられたり依りて本國の如き栽培日未だ深からず然れ共其産額逐次増加し今や益々盛大の域に進めり而して目下除虫菊の培植するよりは層數層除

虫劑の販路擴張せられつゝありて到底需用を供給し能はず故に藥店の請に應じ大半畑地開花のまゝ賣却し猶進んで翌年の産出花を前約するの盛況に及び是れ除虫菊昨今の實況なり斯の如にして一時に非常の發達せんとする其原因種々なりと雖も要するに本邦品はすべて混物少なくして其功能舶來品に優る數等あるは漸次舶來品の輸入を防壓し之が代用にせらるゝと一方に於ては從來只一部の蚤取粉として使用せられしも近時種々用法を發明し蠅蚊遣りを始の動植物寄生害虫殺滅及び毛布の染料に加へ除虫に使用せると稻虫殺虫除虫液を製造する事多きに因る等畢竟用途の擴張せられし結果と云べし其盛況能く盡す處にあらば産業篤志輕々看過する事勿れ

播種季及び播種法

除虫菊播種季は 秋季を可とす尤も春季にまきも可なり但し播種の季は秋は八月より十二月まで春は二月中旬より五月上旬まで蒔きて發生す又夏季土用及び大

寒中の外何時蒔も發生すれども春秋二季に蒔くをよしとす就中秋に蒔はよし（播種成跡参照すべし）

蒔方 旭日の早照する且つ輕鬆なる土壤の地を擇び深く耕し能く土塊を碎き地面を平らにし之に充分人糞を（但し水肥）注ぎ篩にて粉土を篩ひ落し其上に密つゝ種子を撒布し（粗く蒔く時は徒らに場所を要するゆゑ自然注意と、かず且苗の生立宜しからず故に蒔るべく密に蒔くをよしとす）（種子の上に薄く木灰を混ぜし粉土を種子覆はるゝか覆はれざるかの如く）細かき篩にて篩ひかけ薄く藁薦又は蕚にて適宜覆すへし（木灰を混るときは蚯蚓の害なく肥料とあり發芽を早からしむ）蒔は時々日暮より翌日七時を朝日照射する頃まで取り除くを可とす尤も降雨の際注意して覆をなすべし強雨のため種子埋没し或は流失する事を、多し注水は如露様のものにて毎二日夕一回位なすべし但し多く注水すべからず種子發芽すれば覆の下に竹又は木の枝を挿入し種子を壓へぬ様すべし又朝暮時と覆を取

多く注水すべからず

り除き日光を加ふるを良しとす

播種の際は藁又は塵芥等を施すべからず發芽後濕氣に過ぎ腐敗する事あり覆は大略二葉となりたるを全く取り除くべし野菜類の如く極めて發生し易きとも云ひかたき點あれば覆土は充分細かく且薄く撒布し覆の取り除き苗床の乾濕加減注水等注意すべし

植出し季及び植出し方

植出しは 發芽五六週間後稍々植出し能ふ程成長せしものを秋より翌春へのけ植出すべし。但し小さくして植出し難きものは翌春二三月頃より植出すを可とす植方は先濕氣せざる様適宜畝方を作り能く土塊を碎き方一寸餘間に植出し置くべし植出し當時は肥料を施すべからず數日の後糞汁又は干鰯鱈粕適宜施すを良とす但し多量の肥料は反て宜しからず

本場植付季及轉植方

轉植季は 秋蒔きよして既に秋季植出し成長しあるものは一二月頃より梅雨の候迄は全年初秋より或は翌春へかけ本場所には轉植するをよしとす但し宿根性の者なれば一日早ければ夫丈に能く成長するものなれば一日も早きを利とす盛夏炎暑の候を除けば何時にてもよし

轉植方は 田面なれば畝形を造りなるべく濕氣せざるよう注意し畝上に間合凡七八寸をへだて、植ゆべし畑地にありては畝を設くるに及ばず其ま、植て可なり一反歩株數凡七八千株とす

植付當時は施肥すべからず若し肥料を施すときは必粕水肥等己へて根株の外に施すべし但し水或は風呂水二三回施すべし

植方深淺は其中を得る様注意をべし深きに過るときは只に枝葉のみ繁茂して往々開花せず又淺きに過るとは枝葉凋して繁茂せず故に莖際と地面と平衡ならしむべし

早魃に
際して
も注水
すべし
らむ

本園の
別手入
苗は米
國に行
は枯傷
せず

植付後の手入は時々雜草の艾除に勉むべし併し別に鋤鍬の耕耘に及ばざれば其時々淺く耕すは素よりよし

夏季炎熱の候時々注水するをよしと説くものあれ共全く枯死せんとする限りは決して注水すべからず早魃に際し注水して枯死せしむるは本草栽培者實に十中八九なり本園の經驗特に注意するところなり

除虫菊は其性强硬の如くなれども其質極めて軟弱のものなれば數日を経れば概ね枯死す成るべく早く栽植するをよしとす。但し屈強土苗に仕立てるときは能く日數十數日を保ち能く遠地へ轉送するを得（既に本園の加き保証して如何なる遠地へも轉送し曾て枯死せしことなし已に米國送りも雖も安着せり）屈強苗の仕立方は植場の地質と施肥の加減と數回の轉植及堀取りの扱ひ荷作りの注意等已て經驗よりみすものなれば茲に記載し難し要は只充分根幹を養ふにあるのみ

普通苗にありては枝葉繁茂の割合根株に至りて軟弱なれば堀り上後數日を経過す

れば成育の見込みなし儂俤にして枯死せざるものも夏季に至り悉く枯死するを常とせ然れども屈強苗は決して斯る憂あり。併し此屈強苗は遠地送りの爲殊更に注意し培養するものなれども遠地に轉送せざるものは此勢を取るに及ばず不熟練の爲め反て萎縮せしむるとあれば數回の轉植は奇さぬを良しとす

肥料及肥料期

肥料は 餅粕を最良とす豆粕人糞木灰等もよし但し施肥の際人糞等已てに葉莖にかゝらぬよう注意すべし

塵芥堆肥をよしとすれども徒ら小枝葉のみ繁茂せしめて蒸せ枯れする事多ければ餘りよろしからず不加ならせ全く根株を腐敗せしむる事あり又夏季中は薄き水肥の外施さざるを良とす

肥料季は 秋季に限る。但し若苗に施す肥料は春秋二季を可とす。轉植後の苗の施肥秋季に限る所以は他よありせ凡そ植物は肥料多ければ其莖幹肥大繁茂する勿

多くの
藤芥よ
らろし
らすか

肥料期
は秋は
よろし

論なれども隨て開花も亦概ね後々を常とす然るに除虫菊は其收入の多寡肥料季節の當否より(當年の花を用いんが爲め目下)寧ろ早成を希望す春季に施す肥料は菊其植物には好季に相違なければ是か爲め莖葉繁茂に過ぎ肝要なる除虫粉入り故に秋季肥料と施し置き開花前漸く肥料を欠乏せしむるにあり之れに反し若苗は幹莖に繁茂充分望むものあれば陽氣盛なる好季に乗じ肥料と施せば數日の後驚くべき成育をみす

開花及摘花

開花は 土地により多少遅速あれども先五月下旬の候なり肥料及施肥の加減を誤らざれば概ね一齊に開花す

摘花は 己お開齎せし盛花を籠に摘み取るものとす其方は花頭のみ摘み取るを良とすれ共普通の摘方は中人指の兩指に花頭を挿み摘み取るを常とす斯くする時は少

しく莖附着すれ共摘み方便なり女子一日五六目摘採す但一盛花のみ摘み取り蓄花は次回に開瓣を待て摘み取るものとす

葉莖刈取方

葉莖の刈取こ 摘花の後地上凡そ一二寸を残して刈取るべし莖は堆積し置こ稻田に入るべく乾かして蚊遣りどすべし又粉末にして正粉及粉粕よ混し蚊遣り線香を製す

採種及選種方

採種は 先づ種子を取らんとするに其植付畑地の乾燥地おして餘り沃肥に過ぎる所を撰定すべし濕地にして繁茂に過たる處は霖雨の際時により腐敗する事あり依りてなるべく花數の少き處を利とす(繁茂せし美事に開花せし株に印を附け置き種株となすはよしと説くものあれども甚だよろしうらす花付のまゝ久しく置く事なれば概ね根株朽ら莖幹倒れ實入充分ならず注意すべし

種子は乾燥地に採るべし

種子は乾燥地に採るべし

採種季は 前記播種成跡表に示す如く充分熟實せしむるを良しとす併し久しく其まゝに放棄する時は根株枯死す其好機は枯縮せし塞心の指頭に撫て飛落する時と良とす

撰種は 採收せし種子中褐色にして最も形の大なるものを選択し黒色又は腐敗氣のものは一切除くべし(下等種子是なり)此の結實を其儘能く日光に乾かし然る上指頭にて捫み適當の篩にて篩ひ唐箕よて塵芥を除くべし精種は此の中より肥満せし完全なる種子を再び撰擇す尤も精種は最初より注意し屈強なる菊株に結實せしものより撰び取るものとす

殺虫劑製法

殺虫劑製法は 至りて簡便なるものなり即ち己に摘みたる生花を炎天に能く乾燥せしめ而して挽臼又は搗臼にて粉となし粉篩にて篩ひ其儘用ゆ
但し降雨打續か或は乾燥充分ならざる時は火氣にて乾し粉となすべし

製粉は
簡便な
り

又蚤の發生の時は驚べき多く需用され爲めに品切れになると多し必らず豫しめ準備を要す此際に當りては乾燥せしむる時日なき故人數を以て細かく切りて乾すへし然るときは三時間にて乾燥す(但し細断する時は功能多少稀薄となる)發賣せんと欲せば挽たる粉を篩ひ細粉として適宜小袋入又は罐入として賣却すべし併し殊更に小賣となすに及ばす多くの藥種商買入に來るに就き其儘賣却すると便利なり一度其味を知れば以後花を乾かすに及ばす生花の儘能く賣れるものなり

殺虫粉使用年内余分とありし時は罐又は壺に収め密閉し置くを良しとす若し香氣脱却せば再び火氣にて炮せべし

製粉秘法

摘花 好季は蕾花若しくは花心の肥滿に過ぎたる時よりは將に殆んど滿開して塞心花の稍開かんとする時を最良とす

但し滿開せざる蕾花を摘採する時は收獲甚だ少く且殺虫に必要な揮發分を含む有する花葉未だ充分ならざれば効能又薄し併し滿開して肥大に過れば花心中の揮發分漸次消散し種子形をなせば隨て香氣薄く殆んど無効となる故に開瓣五六日内に摘み取るを良しとす

乾燥 莖又は竹簾の上に成るべく薄く晴天四五日間曝し花心乾きたる處で濕氣せぬよう厚紙袋又は壺に收むべし若し乾さ不充分の時は製粉の後變色す併し厚干のため日數を要し或は徒らに永く曝す時は花心の黄色と共に香氣脱却し無効となる故に中心乾きたる時は直ちに收め入るべし

香氣發揚 製粉となす時火氣に炮はべま但し火爐相當の箱を作り四方及び上部と紙にて張り之れに布紙底引出し數個を挿入し此の中にて炮すべし漸く火氣の爲め其稍濕氣を呈し次で乾燥すれば取り出し暫く熱氣を冷し而して之を先臼にて搗き(器械鉄臼にて挽けども反りて搗く方便なり)大畧粉となし又之を挽き臼

滿開直
ちに摘
むべし

多数の花は陰の干し難し

にて挽くべし。簡便にして其出来甚早し但し挽白搗白何れか一方にてもよし此の三件製粉上全く効無効の關係を有すれば能く注意すべし
(菊花は陰干しにしてよしと云ふ人あれ共多量の花は到底此の手續に堪へざり干しを便とす又製粉の候往々霖雨あり此時に際し非常の需用に接する時は其困難云ふべからず此の場合よは廣々竹簾を造り其上に菊花をならべ下に火鉢を入れて温室を造り乾かすべし又炮烙にて乾かすもよし稍乾きたる時乾燥の空氣に晒すべし

除虫劑除虫液混合物混合量及製法

除虫劑 莖葉の混合分量は莖葉粉末の五分に正粉十分を混ぜたものとす尤も莖葉粉末は細末なものとす

但し正粉の高價にして止を得ざるに出で若くは大量使用の際にはすものなれば素より純粹品を良しとす

粉混合量は正粉の十倍を加ふるものとす弱性の虫類には二十倍を加へて効あり

但し混合物は最も細粉にまで必ず三十時間前に混合し置くを要す
煙用混合物の 前記莖葉又は鋸挽屑等燃質物を混すべし撒布用の麥粉麵粉本灰を混すべし

原液の製法

但し混合は三十時間前たるべし
除虫液 混合量は正粉百廿々に水一石を加ふべし弱性の虫類にありては一石五

十匁を混してあり
強便なる虫性にまで前記液汁に感じ難きものへはアルコール又は下等燒酎を混して効ありとす混合量は下等燒酎なれば一石に凡五升を加ふべし
アルコール、アンモニア、石鹼を混合して製造する時一層有効なりとす混合量は正粉五百目 二升五合の下等燒酎(若しくは夫と相當するアルコール)と一升の

アンモニアを加へ五日間密閉し之に二斗の蒸溜水を加へ五日間暖室に再び密閉し置くべし是乃ち除虫液の原料とす使用は之に蒸溜水を加へ用ふるものとす
 蒸溜水混合量は 弱性の虫類に用ふるものは前記原料五合に一斗の蒸溜水を加べし強性の虫類に用ふるものは一斗の蒸溜水に原料凡そ三割を増し用ふべし
 但し之れに石鹼を加ふる時は一層有効なりとす混合量は弱性の虫類に用ふるものは前記の量に中性石鹼百四十目を加ふべし強性の虫類には二百五十目を加ふべし 又石油乳汁の少許を加へて有効なりとす

又 法

体外より有効なる製液法

害虫の如き軟弱なる虫性にして葉芽を蝕害せず只樹液を吸取する混虫及び土中にありて株根を食害するすべて体外より刺衝を要する虫類に使用する製液法及び混合物混合量
 一純良除虫粉 二百五十匁

一下等石鹼

二百五十匁

一石腦油

五百匁

一蒸溜水

五斗

製法 石鹼を熱湯に溶解し除虫粉を加へ攪乱して混合せしめ之に石腦油を加へ充分攪乱すべし弱性の虫類には一倍の水を加へて猶効あり

簡便除虫液製法

一簡便除虫液製法は 除虫干花をアルコールに浸して丁幾とす又沸騰せし湯中に干花及び粉末を浸し器物に密閉して冷却せしむ

蚊遣り線香製法

一蚊遣り線香製法は 二番粕に菊莖粉麥粉鋸木屑の燻煙物を加へ細長さ小紙袋に入れ其一端に点火せしむるものとす
 形は懷爐灰の如くす 又海苔にて煉り合し線香とす 尤も正味粉の少しを

加へて一層有効とす

用法

用法は 撒布燻烟或はアルコール液とし浸劑となす等種々あれども南京虫蚤虱類
よは寐床の中又は其下に撒布し或は疊の織目よ入れてよし衣類毛布毛皮書畫幅書
籍箱杯は其中に撒布してよし併し近時羅紗絨氈舶來フランネル染料に和して除虫
の便とすと云ふ

牛馬犬猫鶏其他家畜の毛虱蚤羽虫類は毛中に振り掛くべし

蚊遣りこ粉の少量或は乾花のよ、燻ふべし烟りなく且佳良なる香氣あれば夏中の
使用甚だよろし

各種の虫類に應用法

除虫花粕を燻ぶるも効能顯著(夜中蚊軍來襲の時は殊に効多し)立とあろに混醉殺
滅又は飛散し再び來襲の憂なく復々蚊帳を用ふるの要なし而して其戸障子を閉せ
ば悉く轉落殺滅する事蚤よりは奏効一層早し(夜中讀書或は安坐蚊軍來襲の時極

めて少量をふすべ試ひべし狼狽轉落奇妙に全く殺滅す)

又蚊遣線香を用ふるもよし

蠅驅除法 右線香蚊遣りとする時、蠅も亦飛散す尤も夜中天井裏に止まりある時
正味粉燻ふれば殊に効多く翌日は失跡す又除虫粉を器物に入れ室内に置時々攪乱
するもよし

米麥雜穀の虫に之俵口に其他類似の害虫及草木野菜の葉芽に累集する害虫に之其
局所に振り掛けてよし

甲虫有羽虫に之て粉末を撒布し難きものは液汁を注でよし

果樹或は喬木の害虫には朗晴の早朝樹下に燻べ(糠木屑等混合するもよし但し混
合は必ず三十時間前たるべし)又は除虫液として注射すべし

稻虫に用ゆるは乾燥せし花を粉又は其儘施して効あれども目下該花非常なる高價
を以て需用され得らるべきよつき收利上花は施し難し依りて其莖を乾かし其儘稻

田に入れて良し

但し除虫粉は自家多量に製造すれ時は安價に出來する故に除虫粉を其儘用ひ或は除虫液とてして用ふべし

凡て粉のまゝ用ゆるは其局部に撒布してよし但し綿藍野菜其他果樹類に場廣く用ゆる時は糠或は麥粉を混合し用ゆるべし。但し使用の時は三十時間以前混台し置くを要す

煙烟して奏効せしむるは純粹除虫粉は勿論佳良なれども乾燥花のまゝ用ゆるも又甚だ簡便なり蚊蠅蚤南京虫等諸種の害虫を驅除するのみならず香氣馥郁人を悦ばし室内の使用至りて妙なり。而して蚊の如き絶て室内にあらず事なく又繩の如き所所に轉落し何時となく退散す（常に除虫粉使用する時は廁等に至るまで蛆虫の發生なければ予が家の如き一匹の蠅ある事なし）

除虫粉の高價にして稍や調ひ難き時は粉又は花中へ鋸挽き屑又は他の燻ぶべき添

香氣馥郁室内に惡虫なし

除虫粉に蠅を扱ふ

物をなし燻ぶべし少量と雖ども能く奏効をなす

但し煙烟用に製せしものは除虫菊の莖葉或は他物を混じ別に製造す

除虫液として使用するものは土中の害虫及草木野菜殊に稻虫の如き場廣く用ゆるもの又は飛逃するものに注射使用するものなり使用方は日出前或は日没後灌注すべし

除虫菊は 濕氣地より已へて乾燥の地則ち山畑又は畠の方宜しきが如し

但し畝形となすに於ては田面又は濕氣地に於ても能く繁茂成長する事野菜の類と畧ばをなし

除虫劑は のみどり粉と云可からざる蚤の如きは只一部の使用のみ且其効を奏する殆んど一夜を要す奇効少なき内なり其用途は蚤より重要のもの多ければなり 除虫菊は其の原産地より遙か日本の方地味好適しあれば能く繁茂するのみならず彼の輸入粉と何れも概ねヒ子粉（乃ち昨年もの或は二三年越しの古物加之ならず

自家製の粉は十倍にす

小麥粉茶の粉莖葉等れ多く混物ある惡品に猶本邦藥店の之れに糖黃粉等を多く混じたるもの故効能甚な薄く到底自家製造の新鮮品に及ばず比例は自家製二分目と舶來粉十匁の割合んど五十倍の相違あり試みに本園製造の一貼を寐床に撒布し置くべし少量の一包能く一夜に數百を殺滅するのみならず其効能猶翌夜も同様にして其比例明らかなり

除虫菊は 其株年々枯死するものにあらず數年成育し歳々花を開く

但し數年經過する時は(勿論五六年はよし)根株朽ち花形自然小形となり隨て收穫減す依りて漸次苗を培養し置き植替へ又は根分するをよしとす尤も根分けする時は根分けせられし丈け夫れ丈け原株損傷して多少收穫を減すれ共苗準備ある時は又便宜根分けするもよし

根分け方一株を四五株より大は十數株に分けてよし植方ははばべて苗と同じ季節は春秋冬はよろし

根分け栽培

植付株數及播種量

除虫菊植付は 一步に付凡そ二三十株とす即ち一反歩七千株乃至八千株とす

但し初年にありては一步に付四五十株以上を植ゆ先づ充分其年の利益を收め翌秋或は後年繁茂せし時其幾分轉植するはよし

播種と十坪に二坪内外を適度とす尤も數十日の後他へ植出するものとす

收支計算表

一金貳百五拾五圓五拾錢

一反歩 收入

内 譯

一金貳百五拾貳圓

一反歩にて生花百廿六貫此の二分止り乾燥粉廿五貫二百目收入

但し一株に付生花十八匁得ふものとし七千株に付乾燥粉廿五貫二百目の割

一袋二五厘人賣 金七厘内半額卸買割引其他手數料宛て半額金參厘五毛實收入と定む

目下の利益は猶多し

(花數五六千個にて一貫目のり故に一株壹百五十つ、開花するとせば生花壹百七拾貫を得又大株は一株より二三百乃至四五百も開花するもれ共是は平均とほし難し)

一金三圓五拾錢

葉料

此の莖目下は蚊遣りとして需用さるゝに過ぎざれども亦稻虫用として使用するもの多し果して殺虫に適すると一般認むるに於ては一段の價值あるものを知るべし

(ダルマシヤにありては莖葉又は根を混じて殺虫用とし効あり云々。領事よりの公報に見ゆ。下記公報參看すへま)

一金貳拾八圓也

支出

内譯

一金八圓

耕作費
除草費

一金拾圓

肥料
人糞等

一金貳圓

地
籾等租

一金八圓

籾
摘花乾燥費其他

差引金貳百貳拾七圓五拾錢

奈良縣廳へ報告せし收支計算

但し明治三十年二月廿八日全縣廳内務部より除虫菊目下の實收益當郡役所を経て特に本園へ御諮問に付き調査して提出せしもの

一金壹百八拾六圓八拾七錢五厘

收入

壹反歩生花收穫壹百拾五貫目(平地畠作)此の乾燥二分五厘止り貳拾八貫七百五拾匁代

一金二拾八圓

支出

内譯

奈良縣内務部
特設本園
に諮問する

金八圓	耕	費
金拾圓	肥	料
金貳圓	地	租
金八圓	雜	費
差引金壹百五拾八圓八拾七錢五厘	純	益

前收益と多少の相違あるは前計算に製粉卸價格此の報告は干花其儘の卸賣價格

除虫菊
は藥草
なり

且荒蕪新開の平島にして初年の收穫を算定せまによる
本草栽培して収益の過大なるは或は驚かる、方もあらんかなれ共是れ乃ち穀物野
菜採の在來乃作物収益に比較を爲すが故なるべし併し是等とは素より全一視すべき
にあらず（澳太利國名譽領事我國へ報告せし明治十九年六月十五日農商務省發
行農商工公報第十六號ダルマシヤ國の輸出調査額毎年五拾萬弗一弗は我國の二圓云々參看
あれ）只利益の最多なる今後益々有望なる且つ販路の確實なる奇靈の藥草なる事

今後の
有望の

を知得せむ自から了解せらるべし目下除虫劑として販賣しつゝあるは其實猶一層
の純益あり而して此の過大の収益は不變一定持續し得る素より將來の事豫確し得
べきにあらざれ共逐年盛況に趣、狀況より推考する時は更に大に發達するや必せ
り況んや現に需用されあるはのみどり粉とし只僅かに使用さるゝに過ぎざれ共而
も需用の一竭をも充すに至らず絶へず之の補足として舶來粉の輸入しつゝある今
日をや其一般に使用され或は廣く動植物害虫驅除に應用せらるゝに至らば今後の
有望實に計り知るべからざるなり

全國新聞雜誌發評

除虫菊の有効なるは今や我國至る處隠れなきに至り而して其功能的面に顯著れば
日ならず支那朝鮮地方に大に販路を開かんや乃ち我國にありては目下蚤虱蚊南京
虫米麥虫其他鳥獸採の毛虱草木に發牛する害虫油虫類に用て未だ歐州及び米國の如
く有りゆゑ作物に用ゆるに至らずと雖も往々實驗の上夥多の需用を來すや明らか

支那朝
鮮の害
虫

利益の
多寡を
問ふは
迂遠な

朝日新
聞の畧
評

なるべし(弊園の如き昨年已小今井氏の手により試みたり)支那及朝鮮地方は所謂世界の芥留場とも云ふ可き場所柄丈け種々雑多の害混虫種數多なれば其販路實に計可からずとて昨年五月販賣店朝鮮國元山津上野商店よりの通信により明なり然に燈臺下暗しの部語今猶除虫菊の効能並に今後有望なるや否やを照會し來る輩甚だ多し如何にも迂遠の至りと云ふべし乍併此の除虫菊は本園こそ或紹介により種子を得て數年來培養しわれども當時にありては未だ他に一人も培養者非ざるのみならず本園も他に種苗の傳播を吝みたれば隨て効能は勿論其植物の性質すら知らざる又無理ならぬと云可し然れども今や全國諸新聞諸雜誌舉て此の奇植物の記事を掲載せらるものなきに至りたれば普く効能知れ渡り併せて有利有望の植物なると知得せしむる可し今茲に二三新聞の畧評を記せし先づ關西唯一の大新聞にして記事確實を以て有名なる大阪朝日新聞(明治廿七年三月三日第四千五百廿四号附屬)彙報欄内に 近來發販する蚤取粉は有害虫類を驅除殺滅するに實に驚くべき奇効ある唯一の藥料に

防長新
聞主筆
長田君
の贊評

して其原料は一種の菊花原と歐州乃産なるか此植物能く我國の地味に適し之を栽培すれば莫大の収益を得る容易なり而して其供給は需用を充す能はず隨て種苗を得る事容易ならず苗不二錢五厘種壹合二圓五十錢の價值に上れり和歌山縣有田郡山田原上山英一郎氏は昨年數十金を投じて其苗を原産地より得て培養せしは壹反歩の植付苗三百五十圓にて買入を望む人あれ共賣却せず將來本邦の一大物産とならん云々
又山口縣防長新聞主筆記者長田逸三君は特に全新聞二千七百四十八號本紙第一面欄内を此除虫菊の記事にて埋め至細に功能の顯著と今後の有望なると且日下の收利驚く可き巨額なるは確實あると并に上山氏は一紳商にして彼の羊頭を懸て狗肉を賣る單に射利のみ的人物にあらざることを證明し懇々社會に紹介せられたり又日本婦人會雜誌の學士中村君特に人体と蚤蚊の關係を説明し則ち説をなして(長文なれば就中有益の二三拔萃畧記す一凡そ人体に害毒を加へ殊に吾人に親炙して煩悶を興ふるは蚤蚊に若くものゝし一個の小動物あれば之を打し之を捫する何かあらん然れども

隨て打打すれば從て襲來し其盡るを知らず(中略)又勞働の苦を一浴の後に忘れんとすれば蚊軍吶喊群襲し帳中に入れバ忽ち蚤の侵襲に逢ひ終夜安らかに眠る能はざるは實に精神と人体を疲勞せしむるの大なるを述ぶ而して蚤蚊の睡眠を防ぐる結果はランケ氏の所謂疲勞物なるもの体中に鬱滯して精神を害し終に違和罷倦頭痛を起し腦神經衰弱症又は脚氣症を誘發し知覺力を減殺する等諸種の疾病を醸すに至る蚤蚊の害は世人の多く知らざる人体に大なる害をなすとを述べ到底此の恐る可き害虫を驅除せざる可からざるを以て夫大に其驅除法方を苦惱せしに計りざりき實に顯著なる除虫奇植物の膝下よあることを發見せしとは云云又全氏は孟買新聞の記事を採萃してリチチユ植物は除虫劑として頗る有効あり埃及國にては戸毎よ之を植て其害虫の來襲を防ぐ都會の地には植木鉢に其苗を植て除虫の便利とす併し其苗の十二計りを蚊の群襲せる室内よ置けむ悉く消散するも死跡を止むるとなし云云

る藥品は何れも毒藥にして二種あり、一は昆虫の外部に觸れば効驗を顯すものにして一は昆虫の体内に入りて撲殺の効を奏するものなり故に前者にては直接よ昆虫に振りかけて効能を顯せども後者は葉上に散布し昆虫が葉と共に之を食したる後始めて中毒を顯はすものなり然れども或藥品は是等の兩効を兼有するものあり、故よ昆虫の生活の仕方よよりて藥品を使用する方法も異らざるを得ざるものなり即ち「あふらむし」の如く細き嘴にて樹液を吸收するものは体外より働く藥品を用ゆるを可とし葉又は幼芽等を食する虫なれば藥品を葉上に撒布して葉と共に毒藥を喰はしむるを可とするものなり然れども藥品によりては体面に注ぐも中毒するものあり

除虫菊 昆虫を撲殺するに最も効能あるものは之に超ゆるものなし普通の驅虫劑は何れも多少毒性を備へ人体に害あれば使用の際注意せざる時は不慮の害を生ずる事少からず、又此等の藥品は殺虫の性を具ふると同時に植物にも多少害あるを以て使用する分量等に注意せざる時は害虫を驅除すると同時に大切な作物も枯死せ

螟虫の
驅除は
除虫菊
に限る

名和君
の昆虫
談

しめたる例少からず然るも除虫菊は決して此の如く忠しく如何なる使用法をいすも又人の体中に入るも害なきものにして昆虫にのみ非常なる毒性を具へ如何なる虫にても此の除虫菊を使用して數分時と経る時は必ず斃死するものなり云云

(混虫研究所長名和靖氏の談話一節)前畧日本には昆虫學者が幾人ござりますか如何なる調べを致しましたか驅除豫防法と行われて居りますか夫は殆んどないのです虫の喰次第を任してあると云ふ有様で若しも亞米利加之虫に聞て見たら何と言ひませうか「已れの方の亞米利加では學者が來て已れ等の性質を調べよより折々仲間を色々な器械や薬を以て殺して仕舞ふと云ふも子孫を繁殖させるに餘程困難で亞米利加は暮し悪い併し日本は好い國である桑も稲も澤山作りて呉れていく々喰てもツイニ逐に來た事はないと云ふも日本は好い國だ日本の虫の喰を愉快だと云ふ最早三十三年には内地雜居を許さうだが已れも行きたいものだ」と云ふて楽しんで居るのだと云ふ虫の内地雜居は私は大反對で亞米利加之虫の輸入はお断り致し

て日本の害虫を是から大に意地目てやらなければならぬ今迄は自由勝手に繁殖したる最早許さぬ私は一人で力むでも仕方がない皆さんと俱に害虫を意地目あければなるまい是れを意地目するには器械又は除虫薬を使用して驅虫の方法を實行すべし云々

新浪花新聞六百十一号 除虫菊の事に就ては已に全國幾百の各種新聞雜誌に記載し本誌上に於ても報道し置しが今上山氏の培養せる一斑を示さん(中畧)左れば各府縣々上山氏に向ひ種苗の分與を乞ふ者夥しく一々其請求に應ずる能はざれば結局各縣に人員を限るに決したる由なるが一反歩植付の純益は三圓以上に出で風旱水の憂なく如何なる瘠地にも生育す此の菊の使用を廣めたらんには農家の最も恐る、彼の稻虫の如きも驅除する事容易なり云云

又山陰新聞二千五百六十一号記事の要点に除虫菊は(中畧)好藥草なるが年々獨逸商の手を経て輸入する蚤取粉も之を原料とするものにて其高頗る多額に上れるが

新浪花
新聞評

我國幸に培養に適せるを以て政府百方周旋する處あり終に其種子を得て之を紀伊國上山氏に栽培せしめしに頗る好結果を得今や地方の物産となるに至れり斯くて漸次輸入品を杜絶し終に支那朝鮮に輸出せんとす(中略)収益は一反歩二百圓以上を得つ、あり此益は他作物の如く災害を知らざれば年々一定減する事なく春秋種を蒔き一度植付たるまゝにて手入の勞取らば而も作地を擇ばざれば又多くの肥料を要せず荒蕪の原野をして數萬の財産と等しき所得を産出せしむ之を盛んに培養して稻虫驅除に使用せむ我國最も恐れ戒心しつゝ、ある螟虫の害によりて饑饉に陥る患なく其益實に量るべからず云云

此他詳細なる有効証明和歌山日日新聞發始め第六十三號米子毎日六十九號淡海民報三百三十號北國六百十一號新浪花千七百八十二號大和千八百五十號宮崎二千四百三十三號扶桑二千四百七十八號金城二千五百六十一號山陰三千八百廿五號岐阜四千八百四十五號五千五百五十六號鎮西百二十四號大阪實業二千九百九十四號東奧千三百十三

十四號因伯千九百八十一八十二號松江千百廿七號濃飛千三百九十八號東北日報千四百三十六號東北新聞十六號仙臺三千百二號茨木千四百八十八號信濃二千二百九十二號大和二千七百四十八號三千四百六十六號三千六百十二號防長千三百號全一號中國千九百四十號巖手二千七百五十五號北海二千六百二十七號三千七百六十八號佐賀二千二百十九二十號九州千四百七十六號静岡三千六十六號三重九百十八號狹貫二千三百六十六號香川二千百三十三號近江千三百六十五號岡山中國大阪朝日全毎日東京二六伊勢海南福島民報福岡日々七十五號東京家禽七十號神戸藥業京都商業醫事新誌煙草雜誌草藥新誌農事新報島根縣師範學校學友會雜誌等枚舉に遑わらず何れも噴々有利有望其奇植物なるを評論し併せて特に贊評を寄せざる實に本國の名譽とする處なり加之已に大學醫學部に於て試験せらる則ち有望にして有益奇植物なるを確知せざる可し兒戲の事業として看過するとなんば幸甚

有効証明

インセクト乃已べ玉の混虫類殺滅に驚くべき有効なるは已に一般の確信するところなり試みに如何なる虫にても花粕又は粉の袋中へ數分間入れ置くべし弱さは暫時如何程強くとも數時間の後に殺滅す又稻虫類を殺滅する除虫液の功能あるは前田正名君の贊評により明かあり而て四億萬の支那人を苦しめ猶近時本邦にて遂次蔓延都府市内に勿論兵衛軍艦貴顯紳士乃邸内等に至る迄迷惑を蒙むらす彼の南京虫にも効あり

明治廿八年八月六日附大坂府堀川監獄署

より有効乃御証明を受く

猶本園純良除虫粉實地試験に使用して奏効に一驚せられしと（甲翅虫類天牛金龜子類）山梨縣西八代郡村瀬日周氏（蟹蛙蛇類）兵庫縣印南郡醫學士小林正雄氏（稻虫蠅

試験實
証報告

傳染病
の豫防
となる

丁幾と
癬に効
あり

蛤虫類は勿論鰻鱈の魚類其他水族虫一切は一大分縣直入郡大澤氏等なり又家禽害虫に有効として本年三月十日付を以て尾州中嶋郡野田飼禽場長野田房太氏より証明を送らる方ち如何なる虫類にも有効なる事推して知るべし

又除虫粉のベスト其他の傳染病豫防に効あれば重寶すべきものなりと

大阪府立病院長清野醫學博士の贊辭なり

除虫菊花は丁幾として疥癬に用ひ効ありと

本縣那耆病院長吉村英徴氏の証明

除虫粉は外國にありてハ蚊蠅虱蚤壁虱其他諸種の害虫多ければ欠くべからざるものゆり殊に亞細亞旅行に於て最も必要なり云云

福島大佐の西比利亞記行中大本隊の機能を賞賛せり

除虫液試験成跡

除虫液は 本園考案滋賀縣榎龍昇館より於て今般發明せられたり滋賀縣立農事試験場

試驗成績左の如し

農發第六六七號

曩ニ御依頼相成リ候除虫劑効能試驗之義ハ成績左ノ通りニ有之候也

明治三十年九月四日

滋賀縣農事試驗場

御印

滋賀縣
農事試驗場
試驗成績

此ノ試驗ニ用ヒタル昆虫ハ左ノ如シ

甲翅類中ニテ 象鼻虫 及テントウムシタマムシノ二種

半翅類中ニテ 浮塵子椿象ノ二種

螟蛉中ニテ 大根蕪類葉ヲ蝕害スル青虫

右ノ三種類ニ付殺虫効力ヲ試驗セル結果左ノ如シ

濃度試驗

試驗別 虫種類 該液中三分間投シタルモノ

甲翅類 三十分間ニテ大抵死ス

半翅類 三十分間ニテ半ハ死ス

螟蛉 五十分間ニテ大抵死ス

驅殺藥ハ植物ニ害ナシ

實驗成績

一水田稻虫、浮塵子、ヨユ蠅、螟虫、オガ虫、發生ニ使用セシニ第一回八分第二回ニテ悉ク死ス

一園地作物青蘿、蕪、胡麻、茄子、大角豆、葉煙草、綿、藍等ノ諸種類樹木芽喰虫、毛虫、等ノ害虫ニ使用シ弱性ノ虫類ハ一回強性ノモノハ二回ニテ悉ク死ス

右榎龍昇館報告

名士乃來園

明治廿九年七月廿四日錦鷄間祇候正四位

勳二等大日本水産會幹事長田中芳男公本園を御縦覽あつせらる

明治三十年一月五日奈良縣廳内務部第五課属井上隆氏來園

同三十年二月廿五日農商務省技師山下傳吉君本橋園地質調査あつせらる

此の他北海道を始め關東關西四國九州西鹿島沖繩より來園の士及び栽培して好結果を得られし諸士の禮狀報告枚舉に追わらざれば姓名畧す

但し成跡詳知せられたき方への逐一住所紹介す

(種苗製粉定價及申込手續別冊添ユ)

除虫菊の効能は已でに述べより茲に農商務省發行

農商工公報を以て在澳國領事及び在米國領事より除虫菊に關する我政府への報告を

澳國領事報告

世に發表せしめられたり參考のため記載す有益の件なれば熟覽あれ

明治十八年五月一日農商務省 農商公報第三號

○除虫用菊花粉在澳日本領事ゲオルグ・ヒユツテロット氏は昨年我國に航して各地周游し貿易上緊要物件を調査して我政府へ報告せしがそのうちに左の一項あり

極めて高價の物品にして日本政府の注意を仰ぎたるものはいはゆるインセクト、パウダー、フラワー即菊花の一種にして或は天然に或は種藝によりて高山荒蕪の地(澳國領タルマ)に繁茂するものなり此種物の花を集め乾し且粉末にする時

は以て虫類を防ぐべし該花の乾物は俵に入れ其粉を桶に詰めるなり花も粉も共に易買上高價の物品なり北米合衆國は兩品とも歐州より大量を輸入す其價は該花の收穫の多寡及び品質の如何により本場にて乾花一貫目につき一圓乃至三圓の差あり余の考ふる所に據れば該種の菊花は之を日本山野の荒蕪地に蒔かば必造作なく日本のよき氣候に慣れて忽繁茂すべし而して山野の貧民はその花を摘

品質に
より價
に差あり

み採るを以て一種の職業を得へし今其一証をあげんにダルマシヤの一小國といへども此品の貿易によりて毎年五六拾萬弗乃歳入あり(一弗は)余は日光山中及湯本より沼田に達するコンセイ峠に於て右の品によく類したる一種の菊花の山野に自生したるを見受けぬ唯異なる處は花の形小さくして香氣十分強かざるのみ兎に角日本の山野に荒蕪の地には該植物の適せんと知るへしと

此報告を獲て彼此該植物の事どもどりしらへしにたゞく北米合衆國郊野新聞に左の圖説を揚げたり但し此に挿入せる畫は原圖の一斑お過ぎず(原圖略す)

爰に揚げたる圖はビレスルム即ちクリサンセムム、コリムボツソムと稱する菊花なり

虫につきて此野菊の價あるとは屢本紙に掲載しされば收穫物を害する諸虫の驅殺劑に此野菊を用ひて有益なる試験をなしたるシヅキ、リレイ氏が此菊の有用

を批認せる事と看客諸氏は尙記憶せらるゝならむ

余輩は爰にこの野菊の詳説をあぐべし野菊の奇なる鋸齒狀の葉ありて白或は黄の花をもて系硬艸あり之を培養せるとき凡四ヒート一フートは凡我一の高さに成長しべし

其地肥沃ならを大抵四ヒート以上にも達すべしこれはシーパーセニウムと稱する菊の類に似たり但し金羽と稱するものは自から異種なりとす

野菊の野生は一フート乃至三ヒートに成長す該菊は葡萄牙より瑞西、澳大利及び土耳其に連續せる中央及び南歐州の普通植物なり現今英國の博學數輩は此菊類を左の如く短簡に略説せり

野菊各種の花頭を乾燥して細粉となしたるものは虫類を避くるの能を有し且人獸及び植物に害なきことは久しく之を知れり此を波爾西の虫粉或はタルマシアの虫粉と稱して家中の混虫を防ぐために用ひたりこれを今までは小瓶に入る、

か或は包と成して高價に販賣せり

波爾西虫粉はピーカルニウムは又ビーロシエムの花をもて製したるもの又ダルマシヤ虫粉はビーシテラリエイホリエームよて製したるものにしてダルマシア人ヘルゼゴブキナ人及びモンチチグロ人中に知られたりオンタリヲ、ロンドンノウキルレム、ソーンドルス氏ハ昨年該粉を各種の虫に施して之を試みしに家外の虫を除くにも満足なることを示せり

又千八百七十八年明治十年の夏博士リレイ氏は該粉を綿の虫に施して著しい効驗を顯はせり即該粉少許を撒りかれば其虫忽植物より落ちて死すと又テキサスのココンブスに於ても廣く該粉を畑地に試みて十分に効あることを證せり因て余輩は動植二物の害取く其功能のはるかに他品に勝れたる恢復劑なりと認め唯その價を減せんとをのみ望めり

ダルマシア人ミルコ氏は三ヶ年間カリホルニアに於て斷えず反別を増し擴げビ

廣く畑地に用ゐる効あり

ミルコ氏大に利益を得たり

シチーを耕作して之を移し入る、とに盡力せるが爲め大に信用を得たりカリホルニアよて作りたる菊花粉は甚だ實効あり此價ある植物は米國の中部及び南部に於ても通常適宜成育せらるべしと假想せりもし該品多くあらば其價多少減せん而して現今賣捌けるものよりも其品位は必精良となるに至らむと

又或佛人の記したるものに左の説あり

殺虫藥は佛語にパウードル、アンセクサシド英語にインセクト、パウダーといひアントミス、ビールトリユムと稱する植物の花をもて製したる粉劑なり此菊は亞拉比、阿爾及び佛蘭西の南部に産す方今は其功用あるため諸國に於て培養するととなれり此粉の製法は此植物の花を採り乾燥して粉末となすなりこれを最良品とす然れども往々この莖葉をも用ひて製するとありこれを下品とす此粉は諸虫を殺すに功あり就中人類及び獸類の蚤壁虱を殺すに最妙なり根も之を粉末として殺虫藥とす

佛人の説

此用法は歐洲に於ては吹子に入れて撒布するものなりその用量は寐床一個につき六ゲラム 凡我一を年に二回施さば壁虱の産する患ひなし

右の諸説に據れを其極めて有益なると明かなり而して其功用を察するに從來歐羅巴にては室内に小虫を防ぐ爲めに主用しその專これを田圃の諸虫に施せるは蓋米國近年の試験に出するが如し小野蘭山氏の本艸啓蒙に左の説を載せたり

野菊 アブラキク センボンキク イハヤキク

山足路傍に多し原野には稀なり一艸叢生す苗の高さ三五尺枝を分つこと最も繁しゆゑに干本菊と呼ぶ葉は鋸齒狀にして密なり莖葉淺綠色斷れば其氣艾の如し秋晩花を開くと甚多し單瓣にして大さ四五分心大にして瓣短く微し、香氣ありて黄色なり其味苦しと

野菊は元來種類の多きものなれば是をたうの一種なるべし農務局は種子を澳國に注文したれば該種の我國に傳はらむと遠からざるべし然れども廣く山野を搜りて之を

求めたらんには或は同種のものあるへしと思はる況んやヒユツテロット氏は日光山中に於て既類似の野菊を目撃したりしをやたとひ洋種とは全く異なりとも均しく野菊の種類なれば多少必殺虫の功あるべし其貴重有益の試験は農家の忽せにすべきものにあらず

明治十九年四月十五日農商務省 農商工公報第十四號

○菊花粉 本報第三號に掲げたる除虫用苗菊花粉の事につき在米國領事館よりの報あり左に抄録す

インセクト、バルダー輸入インセクト、パワダーは箱詰めにして其壹箱の量目百二十磅より百五十磅を容る昨年中の輸入原價の總計は五万五千百九十九弗(一弗は)

紐育府に於て卸賣直段は量目壹封につき二十六仙乃至三十二仙なり然れども市況と供給の模様によりてはや、これよりも高價に赴くとありこのインセクト、

荷造り方

バラダ―は虫類を除去殺害せるの用に供するものなり
 インセクト、バラダ―、フラワーこのフラワーは倭造りにして其壹俵の量目は
 四百封乃至五百封なり昨年中の輸入原價總計は一万千八百八拾弗なり而してこ
 はフラワーは彼のバラダに代り年々輸入増加の方あり當府に於てこのフラワー
 の卸賣直段は一封につき廿五仙乃至三拾仙なり然れどもこれより需要と供給と
 の模様によりてやゝ高價に赴くことあり
 以上の二品は重に澳國トリエストより輸入し來れどもまた倫敦及びリバプール
 よりも多少積來るものなり
 此二品につきての市況を開くにバラダ―の方は混交物あるを恐れて需要者これ
 を忌むの模様あれどもフラワーの方は其の恐れなきがため漸次増加するの模様
 ありといふ且二品ども輸入無税に屬するものなり

明治十九年六月十五日農商務省

農商工公報第十六號

○除虫用菊花栽培法 インセクト、バラダ―、フラワーのとは農商工公報第三號
 第十四號に掲載して聊注意を促さるに果して各地の有志者各種の菊花を寄せて
 鑑定を乞はれしも十數人に下らば其注意寔に到れりと言ふへし然るに今澳國
 トリエスト領事館より其種子に栽培書を添へて贈り越したれば種子は取あへず
 南方地方に分ちて試殖せしめ茲に來書を節録して栽培法の大略を示す
 今般贈る所の除虫用菊花種は有益の植物に於て日本の風土には最適すべく方に繁殖
 するに於ては日本の一大産物となるへし此種は七八月の頃餘り膏腴ならざる淡泊の
 地にて日當り好き場所に播種し而して過度の水を注ぐへららず播種後凡二三週間に
 萌芽すべし春季に至り少しく肥料を施し置ける地まで成るべくは石灰を含有する所
 に移植すべし五年より八年まで五月に花咲く其花の長ずるに及び花のみを切り或は
 幹の上部を併せて切り取り而して其花を摘採するものあり然れども初に花のみを摘む
 を良とす

摘採したる花は最初日光に曝して空気の流通善き所に貯へ置き其乾きたる花を揉み粹きて除虫粉となすあり是れ即重要高價なる貿易品としてダルマシー塊地より米合衆國へ輸入して消費高の最多きものたり此際除虫粉は芳芬鋭きゆゑ小虫を撲滅せるの効あり夏季甲皮毛亦其他凡て虫害の恐ある物を貯藏するに此粉を用ふ殊にダルマシーの除虫粉は品位價格共に波斯國産に優れり

ダルマシーの除虫菊花を培養する地は餘り寒冷ならざる處多し故に日本にては南方の地方より此植物は水く酷寒に堪へず但風は敢て害を與へず且沃土に播種するに及ばず瘠鹵なる石地則不毛の地にて足れり唯日受け善き場所を擇ぶへしダルマシーの播種地は海面より三百米以上なれば日本に於ては九州四國の南方諸山不毛の斜面に培養せは可ならむ然れども日本中何地に適するや實驗の爲め同時に諸所に試作するを至當とし若し能く風土に適せば他物の培養し能はざる不毛の諸山と雖一面に此菊の繁殖するを見るへし然れども初年の間は絶へず菊苗を植付けざるを得ず故

年均價格

に初めの程は必要なる種子を収むるの目的を以て培養すへし

ダルマシーは小國なれ共除虫用菊花粉百基に就き平均四十弗より七十弗五迄の代價を以て輸出し毎年其價格五十萬弗の巨額を収む云々 (以上農商工公報)

公報の記事斯くの如し其有望なる疑を容れざるや明なり併し領事の報告中寒地には不適當の如く記しあれども決して然らず予試驗のため北陸地方雪國を栽培せしめたるものも極めてよく好結果を得たり(暖國にありし種ゆゑ斯く述べたるなるべし)且播種植出し方製造の如き是れ又實地に相違する處あり農商務省より下附の種子の如き此の法方により殆んど絶滅せしめたるのみならず該植物の又本邦へ不適當なるが如く思わしめたり是れ即ち種子の撰擇と栽培の法を誤りたるによるのみ予が栽培の實驗録は己で上に記載すれば茲に其評を畧す

除虫劑をして有効ならしむるには施す處の虫性により各使用の法方異なれば是れ亦斟酌して用ゆべし

北海道に試植好結果

又除虫劑を施し、其虫の性により即時奏効せざるものあり已べて強硬なる虫性にありては數時間或は數日の後死滅するを常とす所謂蛆蚊の如きは即時死すれども蚤虱の如きは數時間の後煙草虫の如き數日の後初めて死滅するを常とす植物害虫に使用試験して有効なるを認めたるは米國博士リレイ氏の漸く近年に於ても子が如き已に實驗して好成績ありし事多し乃ちすくも、あふら虫、芽喰虫等に用て充分奏効せり又果樹の葉を喰らい盡す毛虫乃如き能く殺滅せり併し前述の如く使用の法方により奏効せざるものあり又數日の後死滅するものあれば眼前殺滅を見ざるも必ず靈草の有効を埋没する事なけれ

附言

除虫菊の栽培及び効能よ就ては學士大家の諸説猶多し乃ち
 エービルシゾン氏の 除虫粉は時日を経るに従ひ香芬自然薄くが故に其効能も隨て減少し一年を経れば殆んど無効に屬すと考へらるれ共除虫粉は揮發性

にあれざれば數年を経るも猶同様にして現に五ヶ年間保存し全く香氣の脱却せしものも充分殺虫力を有すと稱せり又氏はダルマシヤ産除虫粉を攝氏百廿度の熱度中に八時間熱し香氣を脱却せしめしに猶有効を奏せしとて除虫の作用はアシモニアを以て酸性分を中和するも減少する事なしとし揮發性ならざる事を証せり(詳説畧す但し可成密閉し置くを宜とす)又札幌農學校教授農學士橋本氏の根切虫驅除試験及醫科大學教授野村君の藥業雜誌に寄贈せる栽培法并製液法等種々あれ共複雜長篇に渉るに付畧す併し參考とて承知せられたき方へは詳報す

廣告

一大日本々草會々員募集

大日本々草會ハ故亡羊山本翁ノ設立ニカ、ル本草學ヲ研究スル處ナリ復一君ハ實ニ翁ノ後裔ニシテ茲ニ大ニ其業ヲ擴張シ社會ニ益セントス幸ニ斯道有志ノ輩加盟贊助セラレシヨヲ希望ス

入會セント欲スル士ハ本草學研究ノ履歷書相添當方へ申越セバ紹介ス

大日本々草會々員

上山英一郎

一除虫劑 名のみどり粉 おろし小賣

一多効(白龍と) 特別最良除虫菊 一年二年苗 種々

一全特別最良種子 三年四年苗 種々

赤紫薄紅深紅薄白大輪

一除虫菊種苗 各種

一紀州本場 溫州蜜柑苗 數種

外珍橘苗 數十種 但し三年苗六年苗九年苗各種

一紀州葡萄櫛苗 種々

右販賣ス入用ノ方御申込われ

追テ一手販賣及び代理店特約ス

紀州有田郡山田原

上山農園

香莊上山英一郎君著

密柑栽培書

圖書入全一冊
二百ページ

項目

自序。凡例。總論。產地。効能。氣候。地勢。土性。選擇。開墾。截枝。施耕。接木。肥料。栽植。壽命。虫害。驅除。病害。採收。節節并。被業。販賣所。苗木。選擇。苗仕立。収支。決算。器具。其他詳細。

白蠟并木蠟

右

木蠟製造貿易商

紀伊國有田郡山田原

上山商會

明治廿八年	明治廿九年	明治廿九年	明治廿九年	明治三十年	明治三十年	明治三十年	明治三十一年	全治卅一年
四月廿八日	四月廿六日	四月十六日	十一月廿八日	一月四日	三月三日	五月五日	八月廿一日	六月廿七日
初版	再版	再版	再版	再版	再版	再版	再版	再版
御發行	發行	發行	發行	發行	發行	發行	發行	發行

定價金三拾錢

此他全國農事雜誌社及農書店ヨリ發賣ス

和歌山縣有田郡山田原平民
 全縣和歌山市十二番丁十三番地
 全縣和歌山市十二番丁十三番地
 東京本郷區上富士前町
 全上富士前町

上山英一郎
 和歌山印刷株式會社
 農業書館

終